横浜キネマ倶楽部 第50号 会報 2018年6月9日発行

第50回記念上映会



神山征二郎監督作品 1983年/日本/カラー/106分/DVD 上映



©こぶしプロダクション

### 2018年6月9日(土)

[上映時間] ①11:00 ②14:10

[講演] 12:50~13:50 神山征二郎監督

[会 場] 横浜市南公会堂

# 「ふるさと」

#### [物語]

山狭の徳山村ではダム工事が行なわれて いた。静かだった村の道をトラックが砂ぼこり をあげて走りぬけて行く。徳山村に住む伝 三は、妻を亡くしてボケ症状が現れはじめ ていた。離村を余儀なくされている息子の 伝六と嫁の花は、ダム工事の手伝いに出か けており、昼の間、伝三は一人である。それ がいっそうボケを進めていた。隣人も忘れて しまい、伝六と同衾する花をふしだらな女と ののしる伝三を、伝六は離れを建てて隔離 する。夏が来て、川で水遊びをする子供た ちを見て表情をなごます伝三に、隣家の少 年・千太郎はあまご釣りの伝授を頼む。か つて伝三はあまご釣りの名人と言われてい た。早起きして出かける二人。伝三のボケ は回復に向かう。夏休みも終りの頃、雨の 日が続き、再び孤独となった伝三のボケは

狂気に近いまでになり、やむなく伝六は、離 れに鍵をかけて伝三を監禁した。真夜中に 離れで暴れる伝三。千太郎は、伝三に秘 境・長者ヶ淵にあまご釣りに連れて行ってく れるようせがんだ。歩きずめで二時間、たど りついた二人は秘境の美しさに目をうばう。 そして、伝三に教えられた通りに降ろした千 太郎の竿に大ものがかかった。千太郎は伝 三に助けを求めるが、伝三は胸をおさえてう ずくまっていた。あわてる千太郎を落着かせ、 伝三は人を呼びにやらせる。村へと一目散 に走る千太郎。その頃、伝三は岩場に横た わり、若き日の美しい出来事を夢見ていた。 数日後、小雪の降り散る峠に、村に別れを 告げる伝六や千太郎たちの姿があり、花の 胸には伝三の遺骨がしつかりと抱かれてい

#### [スタッフ]

監督・脚本・・神山征二郎

原作・・・平方浩介

『じいと山のコボたち』

製作・・・大澤 豊

後藤俊夫

撮影・・・南 文憲

照明・・・岡本健一

音楽・・・針生正男

美術・・・小川富美夫

#### 「キャスト」

伝三・・・加藤 嘉

伝六・・・・長門裕之

花 ・・・・樫山文枝

千太郎・・・浅井 晋

谷先生・・・前田 吟

ヨシ・・・樹木希林

雑貨屋・・・花澤徳衛

杉山・・・鈴木ヒロミツ

良作・・・樋浦 勉

ふく・・・岡田奈々

青年時代の伝三

・・・篠田三郎

ナレーター

• • • 市原悦子

#### 【神山征二郎監督プロフィール】

1941年生まれ、岐阜県出身。日本大学芸術学部映画学科中退後、新藤兼人監督が主宰する「近代映画協会」に参加。新藤兼人、吉村公三郎、今井正各監督の助手を経て、1971年『鯉のいる村』で監督デビュー。以降ヒューマニズムあふれる作風で数多くの話題作を発表し続けている。主な作品に『二つのハーモニカ』(76)、『ふるさと』(83)、『春駒のうた』(86)、『ハチ公物語』(87)、『千羽づる』(89)、『白い手』(90)、『遠き落日』(92)、『月光の夏』(93)、『さくら』(94)、『ひめゆりの塔』(95)、『三たびの海峡』(95)、『宮澤賢治その愛』(96)、『郡上一揆』(00)、『大河の一滴』(01)、『草の乱』(04)、『北辰斜にさすところ』(07)、『ラストゲーム 最後の早慶戦』(08)、『学校をつくろう』(11)、『救いたい』(14)



©こぶしプロダクション

### 【プロダクションノート】

"こぶし"とはまだ春浅い日に枯色の山肌に白く咲く花のことである。大澤豊、後藤俊夫、神山 征二郎――戦後ほうはいとして起きた独立プロ運動の土壌の中で育った三人の映画作家が集結 し、設立したのが"こぶしプロダクション"である。共に映画の最も困難な時代に修業時代を送っ たが、山本薩夫、進藤兼人、今井正などを師として育った、日本映画一方の本流の流れをくん でいることで共通している。

1981年初夏の宵、東京新宿駅に近い茶房に三人が寄り集り、何か今までと同じように生きてはいけない、何かを始めなくてはいけない、と、広大な喫茶店の一隅でお互いの胸のうちをポツリポツリと語り合ううちに、沈殿していたものが少しづつ濾過されてゆくのを感じていた。濾過されて、澄みきった透明な気分で新しいスタートをしようと考えた。胸のつかえが外れた思いでその夜は痛飲した。

神山がその以前から下準備を始めていた「ふるさと」を旗上げにかかげて――想像の翼は次々とひろがり、二回作は、三回作は。何事かが始動するときの独特の活力が体中にみなぎった。しかし、御多分にもれず、現実は厳しく、もとより資力などとははるか縁遠い存在。 81年10月1日をもって会社設立を計ったが、当初は爪に火を灯してもなお足りないような状態の中で、一日中一本の電話も入らないような日々が続いた。焦躁感がつのった。暴走してしまったのではないかという悔恨が頭をもたげてくる。だが、楽をして望むものを掌中に納め得るはずはない。歯を食いしばった。

「ふるさと」は二年余りの歳月を費やして完成した。道中、数知れない励ましを得た。その恩に報い得たかどうか――。末尾になったが、営業責任に当たった瀬戸義昭、さらにデスク、経理、渉外と孤軍奮闘した加藤伸代が果たした役割りを付して記しておきたい。

## くくくくく キネマ倶楽部のページ >>>>>

# 2018年全国映連総会の参加報告 横浜キネマ倶楽部事務局長 神谷 秀明

### はじめに

私たち横浜キネマ倶楽部も加盟している全国映連(映画鑑賞団体全国連絡会議)が、毎年4月初旬、岩波シネサロンで開催している総会です。今年は全国から18サークル32名が参加(横浜キネマ倶楽部からは3名)。①2018年映画界の情勢②2017年活動状況③2018年度取り組み④決算予算⑤体制が論議されました。

#### 全国映連賞·贈呈式

全国映連加盟組織によるアンケートの結果、

□作品賞 日本映画:人生フルーツ

外国映画:わたしは、ダニエル・ブレイク

□監督賞 伏原健之:人生フルーツ

荻上直子:彼らが本気で編むときは

□男優賞 浅野忠信:幼な子われらに生まれ

役所広司:三度目の殺人、関ケ原

□女優賞 瀧内公美:彼女の人生は間違いじゃない

田中麗奈:幼な子われらに生まれ

□特別賞 江川悦子: (特殊メイクアーティスト)

岩波ホール

□特別功労賞 仲代達矢(これまでの功績に対して)

と決まり、当日は仲代達矢さん、役所広司さん、瀧内公美さん、荻上直子監督、

江川悦子デザイナー、岩波律子岩波ホール支配人、そして代理の方々に来ていただきました。 その中で「わたしは、ダニエル・ブレイク」の大庭さん(有ロングランド)からのケン=ローチ監督 のメッセージが読み上げられました。

「素晴らしい賞をいただきましてありがとうございます。たいへん驚いております。本作に携わった関係者を代表して感謝申し上げます。イギリスの現体制は、貧困の貧しさを、またホームレスに家がないことを、あるいは失業者に仕事がないことを非難し、彼らが食糧配給をまつことしかないことを当然の罰だと言っています。これは崩壊したシステムです。格差をなくして、富裕層だけではなく、人々がいきるための当然の権利を受益できる社会が必要だと強く思っています。この作品を通して、根本的な変革を求める声が広まることを願っています。今回の受賞、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。ケン=ローチ」この言葉に日本のみならず全世界を覆っている格差と貧困の極みを感じずにはいられませんでした。

### くくくくく キネマ倶楽部のページ >>>>>

横浜キネマ倶楽部は2005年5月発足し、その年の10月に第1回上映会『美しい夏キリシマ』を開催しました。

発足より13年、皆さまのご支援を頂き、本日第50回上映会を開催する ことが出来ました。

運営委員一同より、感謝の気持ち、御礼申し上げます。

## 〈これまでの上映作品〉

第1回美しい夏キリシマ

第2回パッチギ!

第3回カーテンコール

第4回二人日和

第5回ゆれる

第6回トリノ、24時からの恋人たち

第7回長い散歩

第8回天空の草原のナンサ

第9回イノセント・ボイス―12歳の戦場―

第10回モーターサイクル・ダイアリーズ

第11回恋するトマト

第12回シッコ

第13回歓喜の歌

第14回赤い風船・白い馬

第15回三本木農業高校、馬術部

第16回ラストゲーム~最後の早慶戦

第17回マリア・カラスの真実

第18回ディア・ドクター

第19回扉をたたく人

第20回縞模様のパジャマの少年

第21回春との旅

第22回小さな村の小さなダンサー

第23回冬の小鳥

第24回ホームカミング

特別上映会第1回

ミツバチの羽音と地球の回転

第25回デザートフラワー

第26回ハーモニー心をつなぐ歌

特別上映会第2回

ドーバーばばあ織姫たちの挑戦

第27回エンディングノート

第28回旅芸人の記録

第29回トガニ

第30回月世界旅行・メリエスの素晴らしき

映画魔術

第31回かぞくのくに

第32回警察日記

特別上映会第3回 名もなく貧しく美しく

第33回よみがえりのレシピ

第34回きっと、うまくいく

第35回日本の悲劇

第36回ペコロスの母に会いに行く

特別上映会第4回 息子

第37回ハンナ・アーレント/

第38回標的の村/

第39回救いたい/

第40回野のなななのか

第41回ぼくたちの家族

第42回NO

第43回春よこい

第44回野火

特別上映会第5回 手のひらを太陽に

第45回袴田巖 夢の間の世の中

第46回父を探して

第47回お盆の弟

第48回祖谷物語-おくのひと-

第49回東京ウィンドオーケストラ

第50回ふるさと

## 伊藤元会長への追悼の言葉

#### 横浜キネマ倶楽部事務局長 神谷 秀明

伊藤元会長が2017年12月13日に亡くなられました。77才。当横浜キネマ倶楽部が発足した2005年以来、10余年にわたって先導者として役割を担ってこられ今回50回目を迎えることが出来たことも、もちろん多くの方のお力添えがあったからですが、伊藤元会長のご尽力がなければ難しかったと思わざるを得ません。

おつきあいは私が横浜市へ移住した2014年からでしたので決して長い付き合いとは言えませんでしたが、印象深いことがいくつもありました。まずご経歴が弁護士ということで、私は今までいくつもの映画鑑賞団体を経験してきましたが、映画サークルの中心的役割を果たしている法曹界の方は初めてでした。昨年9月までは弁護士事務所をお持ちでしたので、私の職場から近くたまにお邪魔していました。労働弁護士として活躍され、すべて労働者側にたった弁護をされていたそうです。元々この当クラブの当初の活動資金も映画館の閉鎖に伴う労働組合への支援とその解決金を充てたと聞いております。

また、映画『標的の村』で横浜市教育委員会の後援が右翼の横やりで取りやめになった時の対応や映画大学を横浜に招致するかどうかで激論になった時などがとても印象的でした。やると決められたらとことんやる姿勢が瞼から離れません。また、何度か飲酒を共にさせていただいた時の笑顔も忘れられません。

第50回上映会は伊藤元会長がお勧めされた映画の1つで、ご交友のある神山征二郎監督の『ふるさと』です。どうぞ私たちと一緒に鑑賞され思いを共有したいものです。それではあちらでゆっくり休みながら、たくさん映画鑑賞してください。今まで誠にありがとうございました。最近、運営に携わって頂ける方が増えたことをご報告いたします。これから1回でも多く横浜市民に素晴らしい映画届けられるよう見守ってください。それでは。



# 映画と私

弁護士 伊藤 幹郎 労働市民法律事務所 1968年弁護士登録

#### 1 横浜キネマ倶楽部ー出発の頃

横浜キネマ倶楽部は、2005年5月に発足し、 これまで大手配給ルートに乗りにくい映画史上の 名作・佳作を身近に見て頂けるように、そして「良 質な映画を上映することで、映画ファンの交流の 場を提供したい」という想いで、年4回の上映回 を行ってきた。本年9月3日に行った上映会は 47回目を数えた。

この倶楽部が発足したきっかけは、旧関内アカデミー(関内MGA)である。横浜ではほとんど唯一の洋画の名作ミニシアターであった。この映画館の経営者の放漫経営と労働組合嫌いによって、2004年10月に閉館と従業員全員解雇が通告された。

私は組合に依頼され、会社を相手に解雇撤回と 映画館の再開を求めて、神奈川県労働委員会と横 浜地方裁判所に提訴した。

法廷闘争では会社を圧倒し、さらに「ハマの名 画座の灯火を消すな」という市民運動が結びつい て会社を追い詰めた。社長は「雇用確保というの であれば、映画館を貸してやるから組合で作って みろ、但し賃料は商業ベースでもらう」とまで言 った。

組合ではこの提案を真剣に検討したが、どうソロバンをはじいても黒字経営は見込めない。泣く泣く閉館を認め、解決金をもらって退職すること

になった。2005年1月24日のことである。 かくしてハマの名画座の灯火は消えた。

しかし争議支援した市民グループの有志と解雇 された組合員とで、何とか自分たちで名画の上映 を続け、いずれ将来映画館の運営をしたいという 思いが募り、映画サークルを立ち上げることにな った。

数回の会合を経て2005年5月、名称を「横浜 キネマ倶楽部」とし、第1回上映会を8月に予定 し、終戦(敗戦)記念と平和を願って、黒木和雄 監督の名作「美しい夏キリシマ」(2002年作) を上映することに決め、併せて黒木監督にも話を してもらうことになった。

かくして、2005年10月15日、関内ホール(大 ホール)で記念すべき第1回上映会が行われた。 このとき、黒木監督には、メッセージをいただく こともできた。



横浜キネマ倶楽部第1回上映会

## 次回上映会のお知らせ

第50回上映会にご来場ありがとうございました ・・・・・次回、第51回上映会のご案内について・・・・・

「ヨコハマアートサイト2018」に応募し、採択されました!

上映作品:『どっこい!人間節 寿・自由労働者の街』

日 時: 2018年9月22日(土)

場 所: かながわ労働プラザ(中区・JR 石川町下車)

☆☆ 来場者の皆様には上映時間等が決まり次第、ハガキ、メール等 でお知らせいたします ☆☆

#### ・・・「ヨコハマアートサイト」とは・・・

地域課題にアプローチする文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援(助成広報協力等)する事業です。 2018 年、アートで地域を 27 件の文化芸術活動が決定!

# 横浜に映画ファンの思いが反映される映画館を 作ろう!

横浜キネマ倶楽部は、横浜で永年親しまれてきた映画館の相次ぐ閉館を惜しむ映画ファンが集まり、2005年5月発足し、「横浜に映画ファンの思いが反映される映画館をつくる」ことを目標に掲げて活動を続けています。会の存在をより多くの皆様に知っていただき、映画館をつくる目標に一歩でも近づけたい、それと同時に良質な映画を上映することで、映画ファンの交流の場を提供したい、という思いで年4回の上映会を行っています。

# 横浜キネマ倶楽部会報

発行:横浜キネマ倶楽部



〒231-0062 横浜市中区桜木町1-1-56 横浜市市民活動支援センター No.85 横浜キネマ倶楽部

TEL: 080-8118-8502 (10時~18時) Eメール: yokohama\_kinemaclub@yahoo.co.jp HPアドレス: http://ykc.jimdo.com